

国民という文言を市民という言葉に置きかえれば、まさに、私が、合併後の市政運営の基本姿勢として意識し、努めてまいった軸と同じであります。

市政発展の推進力として「国際交流の推進」、「六次産業化の推進」、「ジオパーク活動の推進」を掲げ、閉塞感を打ち破り、市民の皆様にご自信と誇りが持てるまちづくりに、積極果敢に“挑戦”し続けてまいります。

最後に、平成28年度の財政運営についてであります。

なお、平成28年度一般会計の予算は、地方創生に伴う国の補正予算を活用した平成27年度3月補正予算と合わせ、切れ目のない実質13か月予算となっております。

本市の財政は、歳出については、社会保障関係費や社会インフラ・公共施設の整備、改修に係る経費が増大することに加え、歳入の大きな割合を占める地方交付税は、合併算定替えの逦減や国勢調査の実施による基礎数値の見直し等により減少する見込みであり、財政事情は年々厳しさを増しています。

私は、このことを十分認識し、一般財源の抑制に努めつつ、住民ニーズを的確に把握し、質・量ともに適切な市民サービスを確保してまいります。

このため、平成28年度予算では「地球公園（ジオパーク）で共に生きる」予算と位置付け、「美祢市に住み続けたい、美祢市に住んでみたい」と多くの方々を感じていただける施策の推進を重点的に編成したところです。

それでは、主なものについて、市総合計画後期基本計画の施策体系に基づき説明します。



園児とふれあう村田市長

このほか、消費者の安全と安心を確保するために、地域や関係者の皆様との連携を深めながら、自立した消費者の育成に、消費者行政の分野からも力強く取り組んで参ります。

消防、防災対策として、災害時の通信手段の多様化を図るための諸施策を講じるとともに、消防体制充実強化のため、はしご消防自動車を更新します。

2. 観光交流の促進

観光は、本市の経済・産業・雇用面だけでなく、文化・まちづくりにおいても重要な役割を担っています。

本市の観光事業は、秋芳洞を核とする特別会計が牽引しています。その会計が、平成27年度末を以って累積赤字を全て解消し、ようやく資金不足の状態から脱することが出来ました。



秋芳洞

いよいよ打って出る体制が整ったといえます。

そこで、これまでの、観光事業者や市観光協会との事業ごとの連携と分担に加え、経営の視点を取入れた推進体制として、相互協定を結んだ山口市を始め、周辺市と連携し広域DMOの構築を目指します。

そして、本市の魅力を全国に発信する取組みとして、日本ジオパークの認定を活かした、観光振興策を新たに講じてまいります。

さらに、全国の市町村の中で本市のみの有する強みである台北観光交流事務所を拠点として、台湾・韓国・タイを中心とするアジアからのインバウンドにも積極的に取り組んでまいります。

国際交流の分野におきましても、友好交流都市との関係をより一層深めて、本市振興につなげてまいります。

1. 安全・安心の確保

先ほども申し述べましたが、老若男女、障害の有る無しに関わらず、全ての方が「共に生きるまち」に向けて、「美祢市版の生涯活躍のまち」づくりに取り組みます。

市内交通不便の問題解決に向けては、新たな地域公共交通計画の策定に取り組みます。



予約型乗合タクシー「ミニバス」

子育て環境の整備では、経済的負担の軽減として支援事業の充実を図ります。

特に医療費については、平成28年度乳幼児医療助成事業の拡大に加え、新たに子ども医療助成制度を創設したところです。

また、保育料については、本年度から開始した多子世帯等の保育料軽減事業について、引き続き県内トップクラスの支援を行うなど、本市独自の取組みにより子育て環境において他市をリードしてまいりたいと思います。

地域医療の確保では、2つの市立病院が、市民の皆様が安心して生活するための社会的共通資本であるとの考えに立ち、持続安定的な運営に資するための財政措置を講じることとしています。

3. 産業の振興

産業は、雇用と定住、地域活力を生み出す基盤であり、本市の特性を活かした六次産業化等の取組みによる競争力の強化が求められています。

経済効果のすそ野が広い観光産業においては、ジオパーク認定を追い風に、本市を訪れる観光客の増加が見込まれ、本市経済の好循環に結びつくよう努めてまいります。

本市の基幹産業である農業においては、これまでも集落営農法人化を進めてまいりましたが、今後は、既存法人や法人と認定農業者との連携を促進し、担い手組織のない集落を受入れるなど経営規模の拡大や耕作放棄地の抑制を図る中で、将来にわたり持続可能な経営形態に誘導してまいります。

農業従事者の高齢化が進み、農業後継者の育成・確保が喫緊の課題となる中、農業大学校や関連団体との連携を図り、農業を目指す若者が将来を展望できるような農業施策を推進してまいります。

さらに、依然として、有害鳥獣による被害は甚大であり、被害の拡大を防止するため、地域の皆様及び猟友会との連携により様々な有害鳥獣対策を強力に進めてまいります。

商工業関連では、市内での創業や中小企業者の経営基盤安定化を図るために、金融機関との協調による制度融資を新たに創設します。

六次産業化を加速促進させるため、ミネコレクションの情報発信を強力に推し進めます。



4. ひとの育成

まちづくりは人づくりであり、将来を担う人材の育成に積極的に取り組んでまいります。

まず、ジオパーク活動を通して、地域の文化レベルが向上し、地域に誇りを持つ市民が増加しています。

この市民力をさらに育むために、秋吉台科学博物館に山口大学サテライト教室（分教室）を設置する山口大学との共同プロジェクトに取組みます。

子どもたちの教育に関しては、きめ細やかな学校教育を保護者を含む地域、学校、行政が一体となって取り組んでまいります。

学校の再編統合に関しては、秋芳北部地域の小学校の統合に伴う新たな学校施設の整備を行うとともに、本年4月開校の秋芳中学校については、通学のためのスクールバスを運行します。



北部統合小学校（イメージ図）

そして、グローバル化が進む中、学校教育においては、子どもたちに英語力・コミュニケーション力・未来志向力を育成することが強く求められているところであり、グローバル人材育成事業の充実、台湾との国際交流や海外研修を積極的に推進してまいります。

また、昨年4月に開設された宇部総合支援学校美祢分教室に対して、本市の掲げる「共に生きる」の理念に基づいて、スクールバスを増便するなど積極的に支援してまいります。

学校以外の子育て関連では、児童クラブを、新たに市内3箇所に開設し、子育て世代の負担軽減と、相談支援の機能強化を図ります。

5. 行財政運営の強化

新美祢市誕生以降、8年間、市民の皆様や市議会の御理解、御協力もあり、一般会計ベースにおいて合併時から本年3月末の間に、市の貯金である基金については、約39億円、大幅に増加させ、逆に、市の借金である市債のうち普通債は、約36億円、着実に減らすことができました。

しかしながら、地方自治体を取り巻く財政事情は依然として厳しい状況下にあります。

引き続き、財政健全化に努め、本来の行政サービスを滞ることなく提供しつつ、本市にとって必要な施策を確実に進めてまいります。

財政の透明性の向上と市民に対する説明責任をより適切に果たすため、新たな公会計制度の構築に取り組みます。

また、公共施設の再編・整備に関しましては、新公会計制度構築の進捗との整合を図りながら、今後の総合的な管理方針をまとめることとします。

多様化する市民ニーズ、地理的不利な条件での経済環境の下で、より質の高い行政サービスを提供するため、不断の行政改革に取り組むことと共に、民間活力、第三セクター、NPOなど多様な主体による効率・効果的な政策目標の実現を図ります。

以上、平成28年度の施政方針を申し述べました。市民の皆様方が「誇り」と「夢」、「希望」を持っていただき「住み続けていきたい」と実感できる、そして、市外の方から「住んでみたい」と思われるまちづくりに、全力を傾注してまいります。

議員各位並びに市民皆様の、より一層の御支援、御協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。平成28年度にあたっての施政方針といたします。

<平成28年2月議会より>